

## 2019 年度実施概要

## 学校名

新宿区立富久小学校

## 採択活動名

海に面していない都市部の小学校における海洋教育カリキュラムの開発

## 取り組みの概要

## 1、5年生 海洋プラスチック「今、私たちにできること」

生き物を育む干潟の役割、川と海が会う、汽水域の重要性を学ぶとともに、地球規模で問題となっている海洋プラスチック汚染の現状を学び、海洋プラスチック汚染の問題を自らの課題として考える学習を行う。

海洋プラスチック汚染の原因となる物の約 80%はもともとは陸上にあったプラスチックだとも言われている。内陸部に生活する児童にとって、これは他人事でない大きな課題である。

5年生は葛西臨海公園でのマイクロプラスチック調査を昨年度行い、汚染の実態を身をもって体験したことで、海洋プラスチック汚染への関心を高め、解決への意欲を持っている。

そこで、2年計画の学習として再構成し、2年目の今年度は自分たちの暮らす新宿区を流れる神田川が流れ込む荒川河口部「葛西臨海公園西なぎさ」との比較として、東京湾の各地（東京湾最奥部、東京湾入口に当たる千葉県房総半島）や静岡県伊豆半島の砂浜の砂の分析を進める。この学習と並行して、海洋プラスチック汚染対策のための企業や市民団体の取り組みを取材し、内陸部に暮らす私たちが海洋プラスチック汚染を解決するために「今できること」を考え、新宿区環境学習発表会で自分たちの策定した行動プランを発表する。

## 2、展覧会における海のテーマ「海のなかま」

各教科における海洋教育実施の一環として展覧会における海の題材を取り入れた。

## 3、教育新聞社における発信

教育新聞において取り組みの概要を報告した。

## 活動中の写真

デジタルデータにて2～3枚の添付をお願いします。

実施単元名 ※実施した単元の数に応じて記載してください

1. 5年生 海洋プラスチック「今、私たちにできること」






5年生 海洋プラスチック「今、私たちにできること」



3、展覧会「海のなかま」



# 海のなかま



「海のなかま」をテーマにみんなで協力して取り組みました。

広く深い海の中、たくさんの生き物や海藻、いろいろなものが見えてきました。

海の水や波の様子も、みんなで協力して作りました。

3、教育新聞

# 教科横断的に海洋教育に取り組む

## 「親しむ・知る・守る・利用する」の4観点に整理

### 東京都新宿区立富久小学校

■海が身近ない地域 親な小学校である。2 海に面していない都市 海が存在が身近でない地  
 の意義 016年度より、海洋教 部の小学校における海洋 域においてもいかに授業

本校は新宿区の国 育ハオニアスクール 教育カリキュラムの開 を組み立てるべきか、そ  
 (やすら)通り沿に 千歳・日本橋、東京 塾を進めている。 のための授業モデルやカ  
 料、近に防備を 本学海洋ライアンス海 洋教育を推進してい リキュラムモデルはどの  
 進む高台に位置してい 洋教育促進研究センタ 多校の多くは所在地が よなものであるべきか  
 。周囲は住居地、商業 1、笹川平和財団海洋政 海に近く、子供たちが海 と考え、海が存在が身近  
 である都市部にある小 究研究所の推定を受け、 を身近に感じ、生活して でない地域における海洋

いるのではな 教育モデルとなることを のように海洋を題材とし  
 いたろうか。 目標はハオニアスクー たものが多数ある。正月  
 しか、本校 ルの活動に取り組んたい の代表的な曲である奉曲  
 のように比較 る。 「春の海」は、美しい潮  
 的隣部に位 置し、子供た が日常的に は海を関わら ず生活をして

海洋教育の取り組みは 手ず、現在の教育課程に おける海洋と関係する学 習内容の分析から始め た。実際に海洋や海洋生 物が教材として取り上げ られている例は多くあ る。例えば、国語科では 「スイミー」や「うなぎ の謎を追って」などの教 材において、社会科では 「水産業」や「島嶼部の 暮らし」などの単元にお いて、図画工作科では絵 画や造形の題材としてな どである。また、音楽科 で扱う歌唱教材には、「 海」や「ソラノ節」

「春の海」は、美しい潮 景を表現したものと されている。 このような海洋に 関する学習内容を、「親 しむ」「海を知る」「 海を守る」「海を利用す



